

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300520		
法人名	有限会社プロスタ		
事業所名	グループホーム 心		
所在地	〒855-0867 長崎県島原市緑町9177-5		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成21年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

里山が近くにあり、まさしく自然との共和の中で近隣住民の暖かい触れ合いがある地域です。良き時代の田舎がそのままここにはあります。元気で過ごされたよき時代を再現しながらお互いが楽しく明るく過ごされる場所です。わずか九名が生活する1ユニットに職員が10名で手厚く介助介護いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な山すその住宅地に、共に生活ができる理想的な環境が整った「ふるさと」を感じられるホームである。開放的な玄関と活動のできる広い庭、太陽光発電の設置、ホームの部分的改修をされている。また、観賞用めだかの水槽を購入してめだかを飼育されている。ホームの補修や設備の充実に力を入れており、今後は玄関のフローア、浴室の洗い場の改修を考えられている。ホーム周辺の清掃及び市民清掃にも参加して、地域の方とも交流を重ねられている。入居者の水分摂取を重点目標に細やかな健康管理が行き届き、転倒予防と良眠が得られている。施設長の協働により入居者本位のケアに職員も研修を重ね質の向上に努められている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は全ての職員とその理念を共有し取り組んでいる	職員で考えた理念(笑顔で仲良く・手を取り合って・楽しくゆっくり暮らします)を大切に、各所に掲示することで日々のケアの意識として確認しながら、入居者本位のケアの実践に取り組まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者及び職員は地域公共清掃事業やイベントを通じて地域住民との触れ合いを図っている	近くの交番に1年に1回、又は随時、入居者の名前、年齢、特徴(顔写真なし)を記した書類を家族の同意を得て提出している。ホームの行事に町内会の皆様も参加され、入居者の方々と交流をされる機会となっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所が発行する広報誌等を通じ、又町内を通じて認知症への理解及び介助方法等を地域近隣の方々にお知らせしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回よりすでに17回を開催し困難事例や企画を相談。意見交換をしておおいにサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。会議は、入居者・職員の活動内容、入居者の状態及び改善状況などを資料で報告しており、ホームの日常の理解を得られ意見も出やすくなってきている。17回目の会議では、芋煮会の会食をすることで更に現状を知ってもらえるように、時間を変更して実施されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原市役所介護保険課のロビー閲覧棚には当施設発行の広報誌を掲示。	運営推進会議に必要な資料の提供や、問題がある際は必要に応じて施設長が出向き、相談などされて解決に繋げる体制があり、市の担当者とホームの連携はできている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催で毎年実施される研修には管理者、職員が交代で出席して、禁止事項等を正しく理解してケアの実践に取り組んでいる	身体拘束に関する研修に全職員が交替で受講し、認識をもって日々のケアの実践に取り組まれている。訪問日にも諫早まで研修に行かれていた。また、訪問日には入居者が気軽に庭の散歩に出かけられており、言葉の拘束をしない取り組みをされていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修資料及びにマニュアルを作成して施設内での虐待防止の見逃しが無いようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度においては管理者のみ研修済み。現在までの対象者は皆無であるが、今後は市役所等の公的機関にて相談する予定。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書等における説明は十分なされている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表者がその家族会においての意見を会議の場にて発表されている、これらは運営の参考資料となっている。	家族が月に1回は必ず訪問してもらえるように、毎月の利用料を直接ホームへ持ってきていただくことで、途切れない家族との関係を保たれている。また、歯の治療には家族の付き添いを依頼されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び運営推進会議の中では職員代表がその立場で意見や提案が出されている	職員の離職は開設時より数名にとどまり、勤務後や公休で外部研修を受講されている。職員全体会議は月1回、必要に応じて勤務している職員で随時、話し合いをされている。申し送りは勤務交替時、必ず行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分に努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを通し関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てとは言い難い		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全てとは言い難い		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブやイベント時には努めて馴染みの人等に会えるようにしている	帰宅願望の強い入居者には、施設長がドライブと一緒にでかけられ、心の落ち着きを得ることができるような支援をされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ孤立、引きこもり等が無いように、又なるべく皆さんと一緒に雑談等が出来るように時間配分に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者は努めて契約終了後においても家族との関係は大事にして、ホームでの催しの案内等をしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほぼ努めている	病院での診察の待ち時間に、入居者が職員に話したホームでは聞いたことがないエピソードや、昔の思い出話の内容を、情報の共有としており、計画作成に活かしたケアの実践に取り組みされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を幾度となく聞く事により把握している。(御家族並びに友達も含む)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は1日2回の申し送り事項と職員会議、個人の生活記録の活用で現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネの介護計画作成をもとにみんなで話し合いがなされている。	職員の気づきや入居者との話の聞き取り内容を、定期的な職員会議や担当者会議で話し合い、入居者のできること、できないことを把握して家族からの意見・要望や助言を反映したケアプランを計画作成担当者がまとめて作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人生活記録等で情報の共有がなされ実践や計画の見直しが行われている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況での個々の変化等があり、既存の介護衣服(肌着等)での不都合がある場合でも職員のアイデアで手作りにて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	環境が著しく良い場所を活かして散歩は勿論の事、外庭でのランチ等を実践する事で暮らしを楽しむ支援をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は勿論の事、突発的な深夜での発熱等にも管理者が出勤して対応している。(送迎、付き添いが全て無料)	現在は2名の入居者が入院されている。また、訪問日は職員が付き添い入居者の病院受診をされていた。ホームは可能な限り通院支援をされており家族の安心に努められている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間受診の場合も看護師が出勤。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院での付き添いや送迎(無料)		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との十分な話し合いが行われている	入居者の容態の変化で治療の必要性があれば、家族との話し合いを十分に重ねながら、家族の同意を得て取り組まれている。非常勤看護師(土曜日出勤)がすべての入居者の健康状態を把握し、また、24時間体制で体調に変化があれば、主治医への連絡や病院受診に同行されるなど柔軟な対応をされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での研修、並びに自己研修は定期的実践されている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されて有り、消防署立ち会いでの訓練が定期的実践されている	安全、安心の配慮を常に怠ることなく、月1回の自主点検(熱探知機の作動確認等)をされている。緊急時の広域避難場所の確保、及び連絡の協力体制ができている。また、備蓄については最低限の準備をしている。今後、持ち出しリストとして入居者のカードを制作する予定とされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大旨出来てはいるが、プライバシーを損ねる言葉使いが有り、今後の課題である。	訪問日、職員の声が大きく感じられたが、施設長とのヒヤリングで思いが理解でき、日々のケアを常に、入居者本位に考慮した捉え方で、ホームの運営にかかわられている。	職員の声かけのトーンが誇りやプライバシーを欠いてはいないだろうか、常に、疑問符のなか入居者本位に考慮し、今後講師を招いて基本となる接遇他の内部研修を考慮されていることに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常識内での希望表現は出来るようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活時間は守ってもらい、あとは気ままに過ごせる		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全般的におしゃれをして良いと思う。外出時、イベント時、の服装介助や誕生会時にはお化粧品もお手伝いしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備は出来てない、食事は検食職員1名と一緒に食べ、後2名は食前薬、食事介助、食後薬の介助、食器片付け洗浄後の食事となる。朝食後は1名だけ片付けの手伝いがたまにある。	訪問日は、入居者と一緒に職員も食事をされていた。穏やかな雰囲気ですりげなく食事の介助をされており、味付け、彩り、バランスもよく便秘予防の食材を工夫されている。又、水分摂取をグラフで確認することで、健康管理に努められている。その結果、入居者の転倒予防と良眠が得られるようになった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はグラフで表し個々毎日チェックしている、月の合計、1日平均を出している。少ない場合は甘味付加、及び器の交換等に対応して摂取量増を図る。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後は口腔ケアの介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記録して、排便、排尿を促している、(自立出来無い人が1名)	排泄による夜間時の転倒予防と良い眠りが得られるように、尿とりパットなどの使用で入居者が不快な思いをされないようなケアがされている。トイレ付の居室が2箇所あり、その他ポータブルトイレも使用しており、ホーム内のトイレも充実している。また、ホーム内は匂いもなく、清潔に保たれている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立において野菜、海草の食材を工夫して提供している、又、飲水量のチェック。医療機関での薬処方を緊密に連携して実践している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室は24時間使用出来るが、曜日や時間を決めて行っている、汚染や不潔行為等がある場合や特例として必要な場合はその限りでは無い	入浴は脱衣所を暖め、いつでも対応できる。入浴拒否をされる場合は、声かけを工夫して入浴を促したり、シャワー浴で清潔に過ごせるように対応されている。入居者の着衣の乱れもなくおだやかに過ごされている。今後の取り組みとして、洗い場を広くするように検討されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング横の和室は枕、マットレス、座布団等常備して横になり休息出来るようにしている。居室のベッドは常時横になれるようにセットしている。夜間帯では不安をなくすように声かけして気持ちよく寝れるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬の違いを説明して理解して頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たまに茶碗拭きや毎日の洗濯物たたみをその人のもてる能力内でして頂く。一名ではあるが毎晩夕食で晩酌の楽しみをして頂いている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば職員のシフトを調整してなるべく早く出来るように支援している。施設側で対応困難な場合は家族へ相談して協力を得ている。	文化活動の版画展覧会へ出向き、昇降椅子の体験をされたり、ドライブや買い物へは、車2台又は、2回に分けて外出の機会を増やす努力がされている。月に1回家族と外出される入居者もおられ、訪問時、杖をついて庭の散歩をされていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて希望者には所持金を持たせて有り、使用時の支援を家族と相談しながら行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の子機電話を使用して頂きなるべく本人の声で対応されるように支援している。手紙の場合は職員の完全介助で有る。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花等を飾り、季節感を出させる様な介護支援。又掲示物においては不快な思いをされぬように心配りをしている	リビングの広い窓から、たくさんに実る柿の木を眺め、暖かい日差しを楽しめる和室があり、ゆったりとした共用空間は明るく清潔で掃除も行き届いている。洗面台は車椅子でも対応でき衛生的に整えられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等のゆっくり出来る椅子を数個設置して、日当たりの良い場所やテレビの見える場所等へ自分が行きたい処を自由に選べるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた家具等は持参されるようにしているが、転倒の危険があるような物は家族と相談の上対処している。	食後に居室で休まれていた入居者もおられ、馴染みの物や仏壇を持ってこられている。安心して過ごすことができるように居室のポータブルトイレには布をかけるなど、細かい配慮をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手すりを設置して自立歩行可能なように工夫している。居室の引き戸には個人名を掲示して自分自身の部屋であることを解るようにしてある		